

369) 訣別

アクセルをいっぱい
踏み込んで走り出す
トップギア入るまで
どのくらい過ぎたろう
あいつとの訣別が
こんなにも哀しくて
こんなにも苦しいと
考えもしなかった

君のこと愛してる
誰よりも愛してる
星空に大声で
叫んでは見たけれど
暗闇に聴こえるのは
エンジンきのうなりだけ
秋風が冷たくて
涙だけこぼれたよ

いつの日か訣別が
来ることは何となく
わかってはいたけれど
あまりにも早すぎた
初めてのデートの日
見た映画思い出す
おれたちの生き方に
そっくりで皮肉だね

きっとまたいつの日か
新しい女ひとに逢う
哀しみを乗り越えて
結ばれるときがくる
その日まで傷口を
ゆっくりと癒そうか
たそがれ黄昏の街を背に
どこまでも走ったよ

きっとまたいつの日か
新しい女に逢う
きっとまたいつの日か
幸運がやってくる